

2021年度「みんなの人権・小地域懇談会」

日南町人権センター Ver.4(R3.10.13～)

「優生思想・選民思想」を考える

～選別される生命、その「区別」と「差別」～



【まえおき】……人権問題の重みのこと

東京オリンピックに関連して起きた、いくつかの騒動。

☞ 特に大きな案件は、どれも「人権」に関わるもの。

- ・男性による女性軽視、女性の容姿への嘲笑
- ・障がい者への凄惨な虐待を公に自慢。
- ・国家による大量虐殺の歴史を笑いのネタに。
- ……あれこれ……

・日常生活では、それほど意識していなくとも「イザ」となると、とても大きな問題に。

☞ 「人権侵害」への世の中の厳しい眼差し。

ネット、SNS経由による個人の巨大な発信力。

◎個人も組織も、人権に関する最新の知識・感覚・感性をもって振る舞うべき時代。

= 危機管理(リスク・マネジメント)でもある。

★「優しさ」「思いやり」といったイメージ論や精神論では済まない場合も多い。

・・・やはりある程度の知識は必要なのでは？

* * * * *

今回は「優生思想・選民思想」をテーマにしました。

人権小噺(こぼなし)が仕事だからか、最近の報道で、この思想に基づく言動をよく見かけるもので……。

「優生思想・優生学」の基本的な考え方

個人の特性や属性(人種、肌の色、民族、信仰する宗教、共有する文化など)に、誰かが、何らかの基準で、優劣をつけて劣るとされた人や集団を社会から排除する。

そして優れているとされた特性や属性だけを残すことで、現在・未来において、誰かや、何らかの基準による

「より良い社会」を目指すもの。(もちろん古代からある)

英国のフランシス・ゴルトン(1822年～1911年)が学問的に提唱し、その後「優生学」として流行した。

ただし、かの有名なダーウィン(ゴルトンにとって従兄)の「進化論」から得た着想は、曲解とも言われている。

【優生学の2つの顔】

① 積極的優生学

- ・優れていると見なされた人が、より多く子孫を残すように奨励する。

② 消極的優生学

- ・劣っていると見なされた人が、子孫を残すことを防ぐ。

①積極的優生学

人間による動物や植物の品種改良、優秀な遺伝の持続

- ・より速い競走馬(サラブレッド)を生み出す
- ・より肉質のよい牛を生み出す
- ・より美味しい、多収な農産物を生み出す
- ・あえて矮小化して可愛らしいペットにする・・・などなど



👉 これを人間にあてはめると

- ・知的水準が高い者同士の婚姻と出産の奨励
- ・身体能力の高い者同士の婚姻と出産の奨励

「優劣の物差し」が存在するなら、どんな分野でもアリ？

②消極的優生学

社会学や政治と結びつくと、劣っていると見なした個人や属性を「積極的に」排除する法律や制度に。

過去の代表的な例

【アメリカ】・・・最も早い制度化と実施。

- ・精神障がい者の結婚の制限（1896年～）
- ・精神障がい者の強制不妊手術＝断種法（1907年～）・・・知的障がい者の断種は1970年代まで続く。
- ・移民法（1924年） 民族、人種の優劣の序列化。

【ヒトラーのナチス・ドイツの「選ばれた民」】

◎ドイツ民族(アーリア人種→架空の分類らしい)が
唯一の優等民族という妄想 = 「**選民思想**」

◎「社会的弱者」が社会に負担を強いているという
評価

- 👉 断種法(1933~45年)・・・強制不妊手術が可能に
 - ・ アルコール依存症 ・ 性犯罪者 ・ 精神障がい者
 - ・ 遺伝する治療不可能な病気の罹患者 ・ などが対象

👉 T4作戦(1939～45年)

- 精神障がい者・身体障がい者を強制的に安楽死させる政策を実行。

- ナチスドイツの敗戦まで、およそ10万人が犠牲に

👉 そして…“ホロコースト” (大量虐殺)

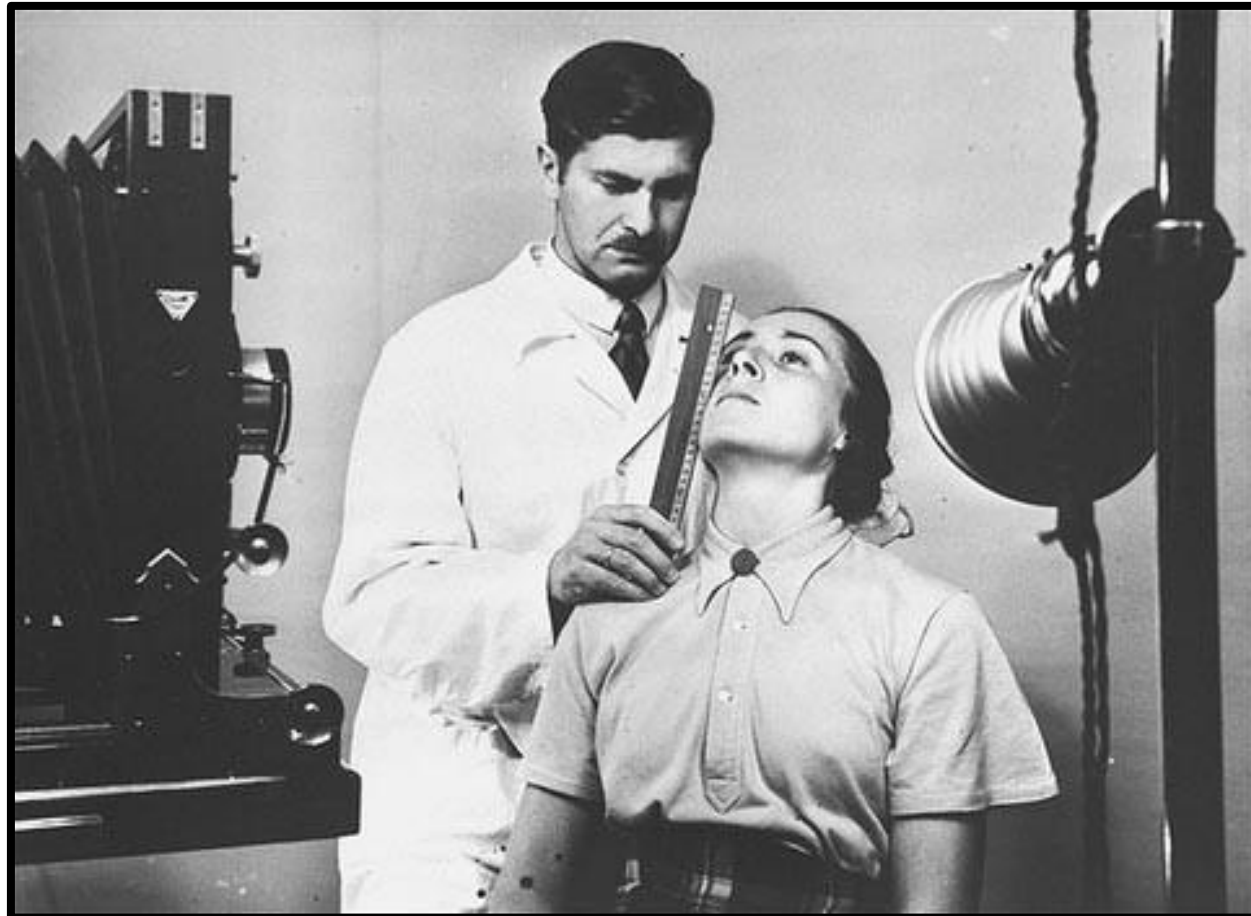
ユダヤ人(ユダヤ教を信仰する人たち)をはじめ、

様々な属性の集団を、劣等・劣性と見なして強制

連行、収容所での過酷な労働、人体実験、直接の

殺害により虐殺した。…劣性集団の絶滅を目指す。

ナチス(ナチ党)による「選民・選別」



☛モノサシで人種の系統を測定しようとする様子。
根拠は、人種についてのエセ科学。
モノサシで行われた選別で、人生が決められた。



☛収容所に連行された身体に障がいのある人は、働けない人として「選別」され、真っ先に殺害されたそうです。
残された義肢。(アウシュヴィッツ・ビルケナウ博物館 ポーランド)

■“ホロコースト”の犠牲者

- ・ユダヤ人、キリスト教においてはイエスを迫害し、殺害したとされる・・・中世から複雑に続く差別。
- ・ロマ(ヨーロッパの非定住民族。“ジプシー”とも)
- ・障がい者・同性愛者・不就労者 などなど・・・
- ・・・犠牲者は560万人とも600万人とも言われる。

◎ヒトラーの「美意識」に反するもの＝「劣等なもの」

と見なして暴力で排除し「優生なもののみ」の
帝国を築くことを夢見る。

第二次世界大戦でナチス・ドイツは敗北

☛ ナチスの残虐な行為への徹底糾弾と、あまりにも悲惨な経験への強い反省。

☛ ヒトラーの政策「選民」の論拠にも見える「優生思想」。

「優生学」は、ヨーロッパではこれを契機にいったん下火に・・・



☛ 「アンネの日記」のアンネ・フランクユダヤ人狩りにより収容所にて15歳にして亡くなる。

◎ 一方、同じ敗戦国である日本では？

【戦後日本の優生思想と政策】(戦前ももちろんありました)

(「愛国心」と「優れた民族であるという自己認識」はどここの国でも表裏一体。

なので……とりあえず民族、人種、国家論は、本日は置いておきます)

👉 (旧)優生保護法(1948～1996年 途中、改正あり)

戦後の混乱の中で、望まない妊娠が増えたこと、
過剰な多産などを背景に、母体保護のための人工
妊娠中絶の合法化も目的……なのですが……

第一条(この法律の目的) この法律は、優生上の
見地から不良な子孫の出生を防止するとともに、
母性の生命健康を保護することを目的とする。

- 👉 あきらかに「優生思想・優生学」に基づくもの
- ・ 事情を勘案した任意の人工妊娠中絶を認める一方で・・・
- ・ 強制的に断種・不妊手術、人工中絶手術を行うことが可能になった。

(医師と都道府県優生保護委員会の判断によって)

👉 具体的に対象を列記(注:表記は法律原文のまま)

- ①「遺伝性精神病」
 - ②「遺伝性精神薄弱」
 - ③「強度且つ悪質な遺伝性精神変質症」
 - ④「強度且つ悪質な遺伝性病的性格」
 - ⑤「強度且つ悪質な遺伝性身体疾患」
 - ⑥「強度な遺伝性奇形」
- (各々に具体的病症名が示されている)

第二十条 優生保護の見地から結婚の相談に応ずるとともに、遺伝その他優生保護上必要な知識の普及向上を図って、不良な子孫の出生を防止するため「優生結婚相談所」を設置する。

☛断種・不妊手術、人工妊娠中絶、結婚のアレンジによって「不良な子孫の出生」を止める目的。

・法施行期間に、約1万6500人が強制的に不妊手術を受けさせられたとされる。

◎ 反省と検証が行われてはいる。一時金を支給する救済法も成立したが当然今も被害者は苦しむ。

◆近年の事件

☞ 相模原障がい者施設殺傷事件（2016年7月）

神奈川県相模原市の県立の知的障がい者福祉施設「津久井やまゆり園」で発生。

元施設職員の男性加害者が入所者19人を刺殺、26人に重軽傷を負わせた。

加害者は犯行の動機について「**社会のために劣性な存在を排除するべき**」という、優生思想的な趣旨の発言を繰り返している。加害者にも精神障がいの疑いがあり、様々な見地から議論が続いている。

👉 出生前医療の発達、遺伝子科学

クローン技術などの飛躍的な深化



- ・胎児、今は**受精卵の段階**でも詳しい診断が可能に。

出生前・着床前診断で、障がいのあるなしが分かる。

- 👉 「出産と中絶の選択」という課題が突き付けられる。

- ・遺伝子の解析 👉 良い遺伝子？悪い遺伝子？

- ・遺伝子そのものへの人の介入、操作が可能に。

◎人による「**生命の選別**」👉「**区別**」？「**差別**」？

◎誰かの価値観における「**優生な人間**」の増産も？

- ・などなど。新たな形で優生思想が問われている。

◎ハンセン病患者、回復者の方のこと。

感染力のとても弱い感染症なのに、遺伝病とされ、強制隔離、強制断種、強制不妊手術、強制中絶をされた。

◎部落差別のこと。

私たち日本社会は長らく被差別部落に住む方々を、どう捉えてきたか？
どう、感じてきたか？

◎ インターネット社会の中で・・・

若い人気タレントが自分のインターネット番組で
選民思想的な発言。(大炎上はしましたが・・・)

👉 「多額の自分の税金(=自分はお金持ち)を生活
保護やホームレスのために使ってほしくない」

「自分にはそうした方の命より猫の命の方が大切」

「社会に迷惑をかけるそうした方は排除されるべき」

★ ネット特有の「**一対一の視聴**」による危険性も。

👉 **子ども、若年層には洗脳されるリスクがある。**

【自分には関係ない・・・無関心でよいのか？】

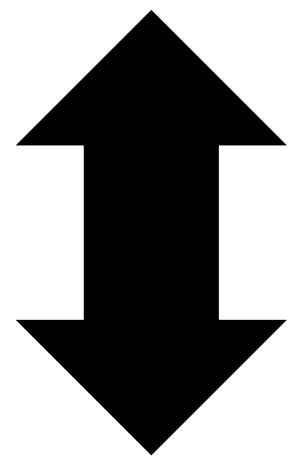
「優生思想」的なモノの見方、感性は誰の心にもある。

- ・陥りやすい罠 ➡ 「まあ、自分は普通か優生だろう」
- ・でも、突然、誰かが、何かの物差しで測り始めたら？
人間の優劣を大衆や政治が決めてきた歴史がある。
- ・その物差しでは、あなたは「劣性」に区分されるかも
そうしたら・・・ ➡ あなたや私は社会から排除される。
 - ➡ 施設に閉じ込められたりする。
 - ➡ あなたの遺伝子の継承の可能性が断たれる。
 - ➡ 生命を処分されてしまう。
- ☆ ≡ 誰もが「優生学」の犠牲者になる可能性がある。

世の中の「優生学」「優生思想」「選民思想」の動向を、人権の観点から注視し続けることは必要だと思います。

「優れた者だけが生き残る(べき)」

(優生思想) (選民思想)



どっちなのか？

「多様であるからこそ生き残ることができる」

(ダーウイン)

【多様性(ダイバーシティ)と共生社会】

👉最近の世界や日本が目指す社会のキーワード

◎多様な個性や属性を受け入れて認め合う社会。

◎「違い」は本質的には理解し合えないのかも

しれない。……そう単純なものではないから。

◎でも、「**選民**」はしない。「**優劣**」としてとらえない。

◎同じ社会・世界に暮らしている以上、誰もが、

今よりも少し「幸せ」を感じるために支え合えたら。

【共生社会への、ある考え方(アドラーの心理学)】

◎前提 📱 人間は、根本的に「社会的動物」である。

📱 そのため、「幸せ」も「苦しみ」も「対人関係」や、

「共同体の中の自分の在り様」に起因する。

📱 「共同体感覚」の成熟した人は、共同体(地域社会～国家～世界)のためになることを目的に行動し、それによって幸福を感じることができる。

📱 未熟な人は、自分の利害のために行動するので共同体内で帰属感が得られず、不幸せ感を持つ。

【おわりに】 世論の流れ、風向き、空気感を客観的に見ようとすることの大切さについて、こんな言葉があります…。

「ナチスは突然、空から降りて

きたわけではない」

「悪魔は、悪魔の姿をして

現れるわけではない」

ご清聴ありがとうございました。

